# 10万人来場 作って 驚き 歓声

## 自然・技術 学ぶ

親子でモノづくりの共同作業

## ワークショップコレクション9

主催　NPO法人CANVAS・慶応義塾大学大学院メディアデザイン研究科

### デジタル時代 新しい学びの場に

子どもの学びと創造の場としてのワークショップが100件以上集まった「ワークショップコレクション9」が、NPO法人CANVAS・慶応義塾大学大学院メディアデザイン研究科の主催、モノづくり日本会議・日刊工業新聞社の特別協賛で催された。モノづくり体感スタジアムと合わせて10万人の来場は過去最高。会場から日吉駅まで入場を待つ行列ができるほどの盛況となった。「未来のつくりかた」が詰まった各ワークショップのプログラムに、子どもたちは目を輝かせた。

子どもたちが創造し表現するきっかけを与える手法として、ワークショップへの関心が近年高まっている。ワークショップの企画理事長は「これまで目標としてきた来場10万人を達成できた。今後ももっと盛り上げていきたい」と感慨深げ。中村伊知哉慶大院メディアデザイン研究科教授も今回の出展内容を「デジタル時代の新しい学びの場として定着した。内容も一段と多彩になってきて、皆で作るプロジェクトであると感じる」と総括した。さらに「今や2歳児でもタブレット端末をガンガン使える時代。こうしたものの普及を世界の子どもにまで広げたい」と語った。

数多くの出展の中から、来場者のアンケート、外部審査員らによる選考を踏まえて表彰する「キッズワークショップアワード」も贈られた。最優秀賞はグロスタの「宇宙服で英語の夢を載せた傘袋ロケットをつくろう!」に。ビニールの傘袋を膨らませて尾翼をつけ、ロケット状にして楽しむプログラムで、宇宙への関心の高まりもあって会場内でも人気を集めた。同ワークショップには宇宙航空研究開発機構（JAXA）が協力、ブースでは実際の宇宙服姿がデモンストレーションされた。

このほか「デジタルえほん」ワークショップ（大日本印刷など）、「アナウンサーになってニュースを伝えてみよう!」（TBS）など子どもたちに笑顔が絶えないプログラムが満載。一方で、よしもと芸人がリードして日本の伝統文化を紹介する「でんとうを感じる」プログラムや、「せんとくん」「尼崎のちっちゃいおっさん」といった人気ゆるキャラが、子どもたちのオリジナルゆるキャラづくりを支援するコーナーなど、ちょっとアナログな出展も満員の盛況だった。

子供たちの好奇心は宇宙服にも向けられた

・運営を手掛け、今回も主催するCANVASは昨年11月に設立10周年を迎えた。今回以前に全国で延べ2000回を催し、21万人が参加した。つまり今回が最大の規模となる。

石戸奈々子CANVAS

モノづくり体感スタジアムと合わせて10万人が来場。入場を待つ人々で長蛇の列ができるほど盛況だった

## ネイチャー・テクノロジー研究会

### 未来の生活 描いてみよう

モノづくり日本会議のネイチャー・テクノロジー研究会は、自然のすごさを学びながら、心豊かに暮らせる将来のライフスタイルを考える教室を開いた。同研究会コーディネーターの東北大学大学院の石田秀輝教授と企業の有志らが子どもたちに自然の面白さや不思議さをわかりやすく教えた。

最初に地球温暖化問題を挙げながら、その解決策のヒントとして自然のすごさを紹介。例えば、昼夜の温度差の激しいサバンナでシロアリの巣の中は約30度Cの温度で保たれており、電気を使わない〝自然のエアコン〟の事例として示した。天井にくっつくヤモリの足先や、色が付いていないのに鮮やかなモルフォチョウの羽の原理などもクイズを交えて説明。

その自然のすごさをヒントに、子どもたちは2030年にわくわくできるようなライフスタイルを画用紙にまとめた。さまざまな色のクレヨンを使い思い思いに描いた。

川崎市中原区から来た小学生・柳澤主税君は「地球温暖化などいろいろなことがわかった。できるだけ節電して二酸化炭素（$CO_2$）を出さないようにしたい」と温暖化問題が印象に残った様子。横浜市港北区から来た小学生・礒崎心夢さんは将来のライフスタイルについて「みんなが楽しく過ごせる街を描いた。宝探しクイズを街中でやって勉強を楽しくできるようにしたい」と笑顔で語った。

みんなが楽しく過ごせる街に

## 心技隊

中小製造業らの集団、心技隊は独自のノウハウを盛り込んだ喧嘩（けんか）コマでしのぎを削る「全日本製造業コマ大戦」で全国に勇名をはせる。今回はその技を子どもたちに伝授したが、主催者側も真剣に楽しんだ。

指で回す直径20ミリメートル以下のコマをアルミやステンレス、スポンジ、バネなどの材料を組み合わせ、親子合作で製作。「技は心と共にあり」を合言葉にする心技隊の熱血指導もあって、コマづくりに集中する。完成後、別室に設けた直径250ミリメートルのケミカルウッド製「土俵」上で一対一の対戦が繰り広げられ、さしずめ「日吉場所」だ。子どもたちの繊細な手の器用さが発揮され数分間まわり続ける熱戦が続いた。

会期中最初の場所で優勝したのは中学生の井高秀君（横浜市港北区）。対戦相手に小学生も多かったため「勝ってしまって後ろめたい気も」と照れるが、実はコマ大戦の報道に刺激されてか、昨夏の自由研究でコマのまわり方を徹底調査した強者だった。6歳下の弟・慧（けい）君も上位進出した。

コマ大戦のキャラクターを描く漫画家・たなかじゅん氏も場所を訪れ、「自分で作ったコマで勝負することに達成感があるはず。負ければ悔しいだろう。コマ大戦はなぜかいつもドラマチックだ」と目を細めた。

### 手作りコマ

ドラマチック「コマ大戦」

## ハンコ

### イメージを形に

東京スカイツリーで注目される東京・墨田は製造業の集積地でもある。この地の若手経営者らが中心となった一般社団法人配財プロジェクトが、2010年から単なるリサイクルとしてではなく、町工場で生じた「廃材」を、異なる視点・用途でもう一度世の中に送り出す事業を進めている。新たな価値を付加した「配財」を介し、人や組織もつなぐ新しいエコ・リプロダクトのプラットフォーム作りも目指す。

子どもたちが体験したのはハンコと万華鏡づくり。ハンコは緩衝材などに使われるウレタンの型抜きした後の廃材を活用。これを自由にデザインして張り合わせ、世界に一つしかないオリジナルのハンコを作る。横浜市港北区の小学生・越阪部日毬（おさかべ・ひまり）さんはキノコ、リンゴ、家、人、お姉さんの顔などをイメージしたハンコを次々に作り上げた。「図工で版画をしたことはあるけれどハンコ作りは初めて。全部自分で作れる楽しさがある」と喜ぶ。

万華鏡は準備された筒にTシャツの端切れ、プラスチックの削りかすなど15種類の細かな材料を入れ、回しながらのぞくときれいな夢の世界が広がる。やはり港北区から参加した小学生の松尾英璃さんはバネを入れるなど工夫を凝らした。「お父さんや弟、友達にも見てもらいたい」と自信をのぞかせた。

## 配財プロジェクト

## 万華鏡

### 「廃材」で夢世界

モノづくり日本会議


会員企業各社（五十音順）

NTN株式会社
京西テクノス株式会社
独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
大日本印刷株式会社
アイコクアルファ株式会社
株式会社アルゴグラフィックス
オーエスジー株式会社
キリン株式会社
株式会社スギノマシン
太平洋工業株式会社
アイシン精機株式会社
アンリツ株式会社
オークマ株式会社
コマツ
住友化学株式会社
株式会社ダイヘン
アイダエンジニアリング株式会社
イグス株式会社
株式会社岡村製作所
サントリーホールディングス株式会社
株式会社スリーボンド
大洋技研工業株式会社
愛知製鋼株式会社
伊藤忠商事株式会社
花王株式会社
JX日鉱日石エネルギー株式会社
株式会社積水インテグレーテッドリサーチ
株式会社椿本チエイン
旭化成株式会社
岩谷産業株式会社
金子産業株式会社
株式会社ジェイテクト
積水ハウス株式会社
株式会社ディ・エフ・エフ
アサヒグループホールディングス株式会社
株式会社エイチアンドエフ
兼房株式会社
シャープ株式会社
株式会社ソディック
THK株式会社
株式会社アマダ
株式会社エジソン
キヤノン株式会社
昭和リース株式会社
大同特殊鋼株式会社
TDK株式会社